

すいことではなく行政の理解あるリーダーシップはもちろんでありますが、農業に携わっている人を始め全島民の理解と協力が必要であると実感いたしました。

そのためには、やらなければならぬことがたくさんあります。トキが安心してえさを取るえさ場作りや営巣木の保全是もちろんのこと、農業の無農薬化等課題はまだたくさんあります。

トキと共生援助も活動を始めてから4年目になりました。かつてはトキがえさ場としていた清水を中心に加え、場の維持管理を島内外の多くの人たちの協力を得て活動をしてきました。

今後はこの中国洋島の野生のトキの状況を多くの皆さんと共有できるように努め、トキと共生援助の仲間ももちろんのこと、他の多くの皆さんとともにトキの放鳥に携わっていききたいと思えます。

洋島を旅して

片野尾とき舞生産組合

代表 小田 誠

私は集落の仲間とトキの野生復帰に向けて50aの田んぼで有機、無農薬の稲作に取り組んでいます。自然に優しい農法は手

間ひまがかかり、人間にとつては敵しいものがあります。しかし、この田んぼではトキのえさと生きる物が豊かになり、安全でおいしい米がとれます。また、かつてトキがえさ場にしていた山際の田んぼは長い間耕作が放棄されて原野になっています。島内外の水フンティア団体の皆さんのご支援とご協力を得て、水田に還元する作業をしています。

このたび、佐渡市長を団長とする「中国友好交流訪問団」に民間から長男とともに参加させていただきました。

かつては佐渡の空に舞っていたトキが、いま中国の洋島周辺ではサギとともに普通に見られるようになっていきます。青々とした田んぼから朱鷺色の翼をひるがえしてトキが飛び立つ光景には、たいへん感動しました。発見されてからの徹底した保護政策と増殖政策が功を奏したものであると思われま。

佐渡でも洋島のようなトキと共生できる人間にも自然にも優しい農業が再現できるように、微力ながらこれからも活動を充実し拡大していきたいと考えています。市民の皆さんのご支援とご協力をお願いします。

春日鬼組

7月15日から17日までの3日間、にわたり、アメリカ・ロサンゼルス・トル東京にある日米文化会館を会場に開催された、2005北米太鼓会議に、西津・春日鬼組が招待を受け、アメリカの人々に鬼太鼓を披露しました。

この会議は2年に1回開催され、毎回100以上の団体から、500名を超えるアメリカやカナダなどで活躍している和太鼓演奏家が

参加するイベントです。参加者はそこで和太鼓に関するワークショップ(体験教室)や討論会などを行い、和太鼓芸術の可能性を深く追及しています。そこで春日鬼組は鬼太鼓舞台公演、鬼太鼓ワークショップ、並びに、リトル東京内の門付けを行いました。

舞台公演を鑑賞した多くの観客は、初めて観る鬼太鼓の迫力と、洗練された芸にくぎ付けとなりました。全米日系人博物館前での公演の様子はアメリカでテレビ放映されると同時に、当博物館でその記録が展示される予定です。鬼太鼓はアメリカの人々に広く紹介されます。

おんていロスの町をアートマップ



反響は大きなものとなりました。今、佐渡の鬼太鼓は世界各地で知られる日本を代表する民俗芸能となろうとしています。

このたびの北米太鼓会議における春日鬼組のパフォーマンスは北米の和太鼓演奏家に衝撃を与え、芸能文化豊かな佐渡を大いにアピールすることができました。

—春日鬼組会長

難波徳昭氏のコメント
「このたびの経験は、春日鬼組にとって大きな自信となりました。参加に当たって、尽力いただいた関係各位に対し、心から感謝申し上げます。」

(文・春日鬼組)

